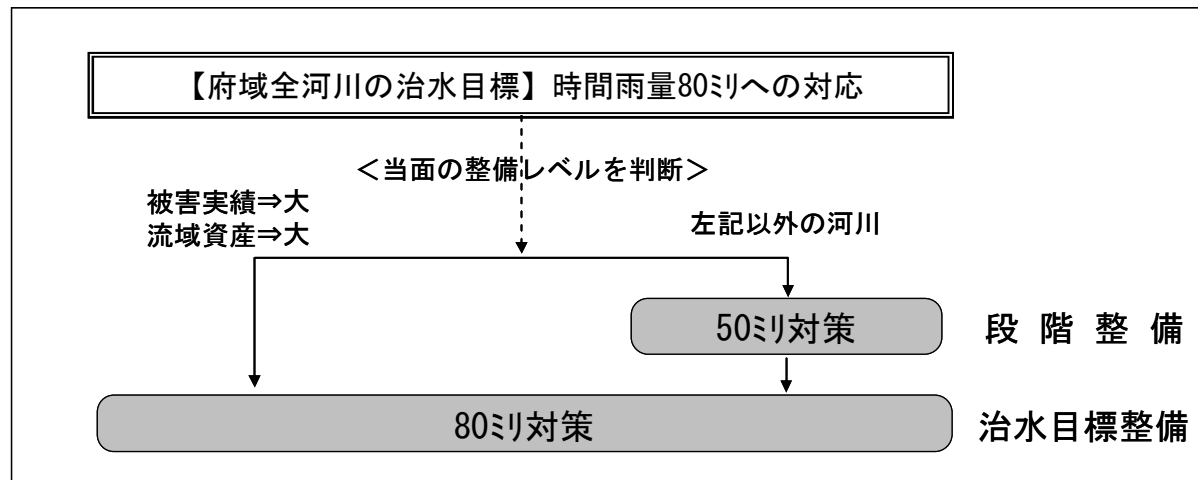


# 今後の治水対策の進め方

大阪府

## ■従来の考え方

- 府管理の全河川について、治水目標を時間雨量 80ミリ程度（1/100）への対応とし、治水施設で整備。（洪水をあふれさせない）
- 併せて、避難等のソフト対策も実施。  
⇒達成時期約50年後（残事業費 1兆400億円）と府民が実感できない



## ■「今後の治水対策の進め方」

**【基本的な理念】** 人命を守ることを最優先する。

### **【取組み方針】**

- (1) 現状での河川氾濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2) 「逃げる」「凌ぐ」施策を強化するとともに、「防ぐ」施策を着実に実施する。
- (3) 府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川氾濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

# 1. 地先の危険度評価(現在)

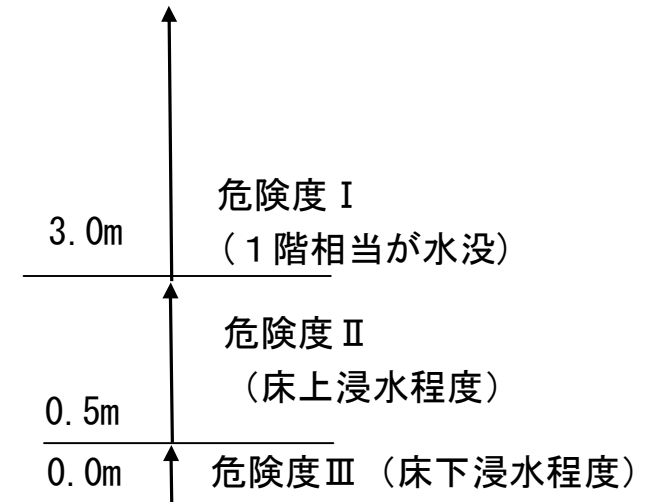
## 1-1 地先の浸水危険度考え方

○現状での河川氾濫・浸水の程度により河川毎の「地先の危険度」を評価する。  
⇒50ミリ(1/10)、65ミリ(1/30)、80ミリ(1/100)、90ミリ(1/200)のケースによる河川毎の被害想定(氾濫解析)を行い、被害の程度に応じて「地先の危険度」をⅠ～Ⅲに区分。

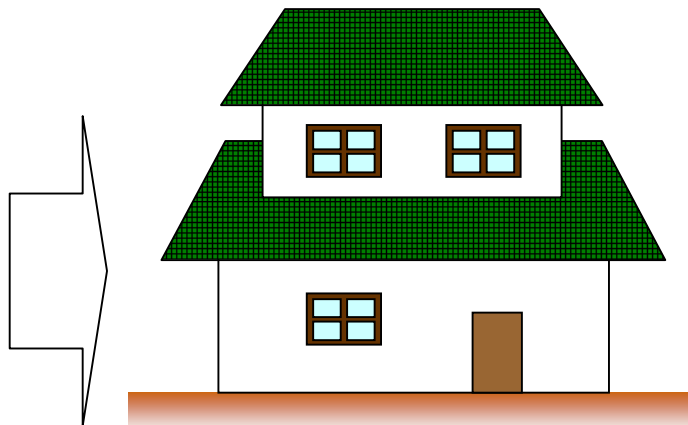
危険度Ⅰ	想定浸水深が建物の1階相当が水没すると思われる3.0m以上、または木造家屋が流出するとされる家屋流出指数が $2.5\text{m}^3/\text{s}^2$ 以上の箇所。
危険度Ⅱ	想定浸水深が床上浸水程度である0.5m以上～3.0m未満の箇所。
危険度Ⅲ	想定浸水深が床下浸水程度である0.5m未満の箇所。

# 1. 地先の危険度評価

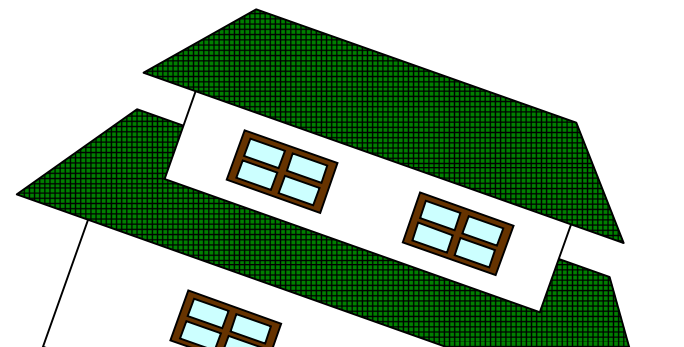
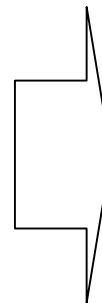
## 1-2 想定浸水区分



## 1-3 家屋流出指数による



家屋流出係数  
: 2.5未満



危険度 I (木造家屋が流出する危険性あり)

家屋流出係数  
: 2.5未満

# 1. 地先の危険度評価

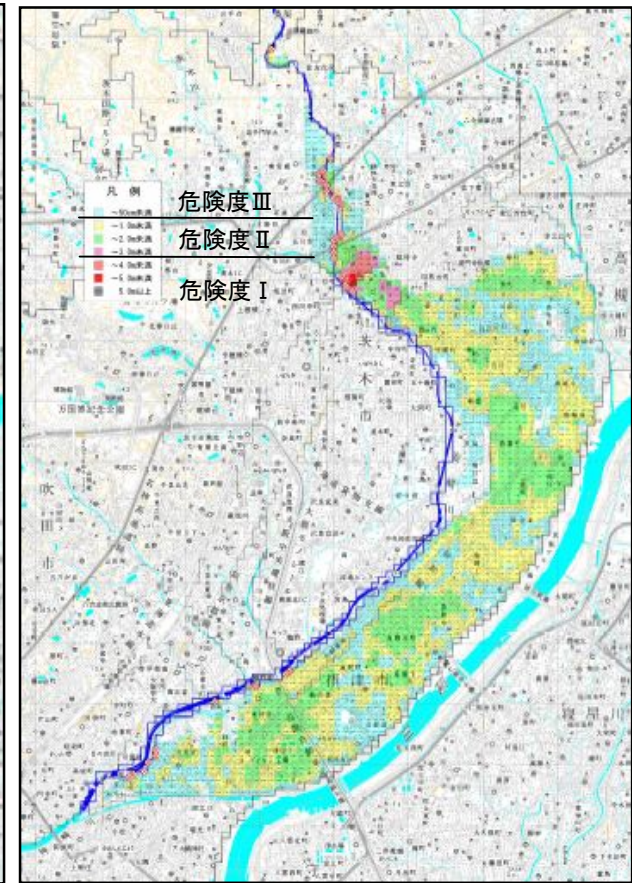
## 1-4 現況での地先の危険度評価 氾濫解析例



対象降雨（時間雨量65mm程度：1/30）



対象降雨（時間雨量80mm程度：1/100）



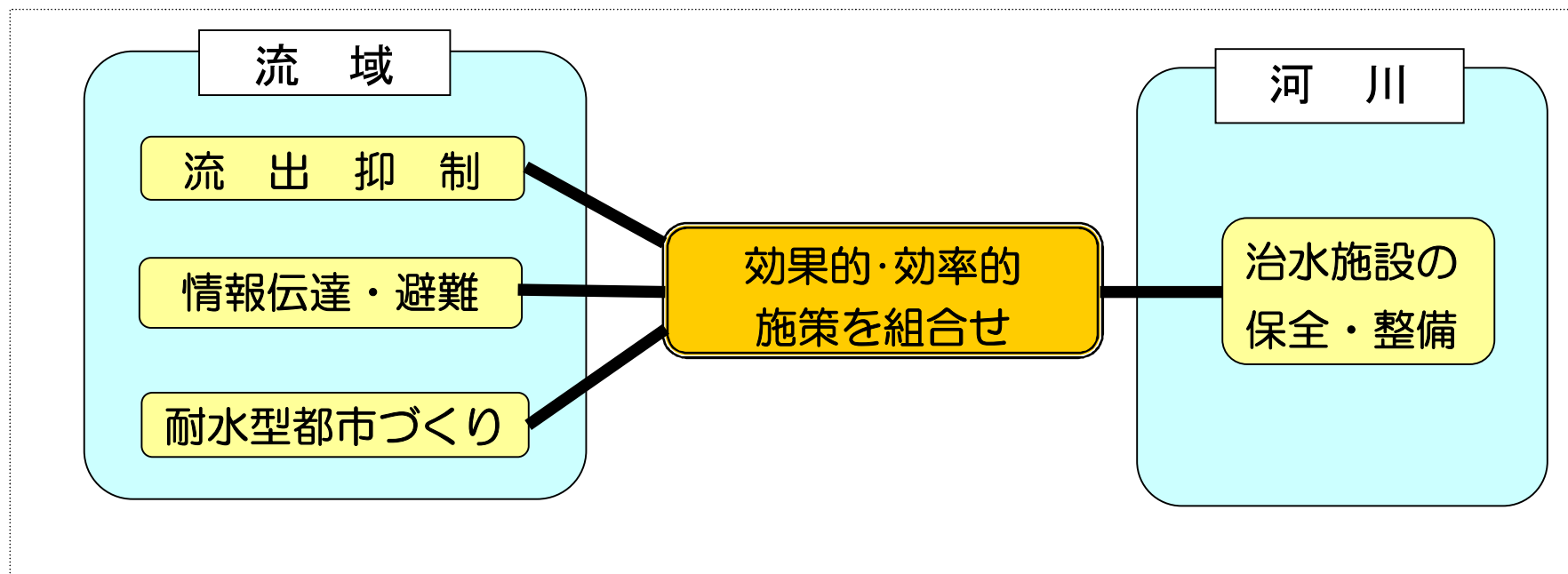
対象降雨（時間雨量90mm程度：1/200）



## 2.河川毎の総合的・効果的な治水手法の組合せ

### 2-1 地先の危険度低減の考え方

- 雨が降っても河川へ出る水量を減らす。 ⇒流出抑制
- 河川堤防の決壊による氾濫をできるだけ回避するなど、河川へ出てきた水は可能な限りあふれさせない。 ⇒治水施設の保全・整備
- 河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。 ⇒耐水型都市づくり
- 河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。 ⇒情報伝達・避難



## 2. 総合的・効果的な治水手法の選択

### 2-2. 当面の治水目標設定フロー

